

(3) パイロット事業評価調査結果
(関係者調査)

パイロット事業（第8回 呉とびしまマラソン大会）関係者ヒアリング

対応者：第8回 呉とびしまマラソン大会事務局 担当者

場所：広島県呉市中央4-1-6（呉市スポーツ振興課内）

「呉とびしまマラソン」への関わり方

所属する組織（主催団体・共催団体・後援団体）と実際の関わり方

- ・ 所属する呉市スポーツ振興課は、実行委員会を構成する団体の一つという位置づけ。
- ・ 実行委員会の事務局を担当している。

※今回のパイロット事業依頼の窓口

これまでの北方領土問題認知・理解状況

- ・ 問題があることは認知していた程度。特に思い入れがあったという形ではない。

パイロット事業に協力した理由

- ・ 博報堂から相談された際に、正式な文書があるのかを確認。内閣府からの正式な依頼という形であったため、ブース出展を許可した形になる。
- ・ 通常、一般の企業などがブースを出展することは許可していない。

パイロット事業（ブース展開）に対する評価（関わった印象）

- ・ 大会当日は多忙であったため、大会事務局から外に出ることができず、ブースの様子も確認していない。大会終了後、関係者と顔を合わせる機会がないため、皆の印象・評価も把握できていない。

今回実施困難と判断されたプログラムに対する意見（ルート上のパネル設置）

- ・ マラソンのコース上にパネルを設置して、本土からの距離をイメージさせるという提案を受けたが、お断りした。
- ・ 大会の参加者は距離を厳密に把握し、自分のタイムを計りながら走るため、惑わせるような情報は与えたくなかったというのが、その理由。

今回のようなプログラムに対する今後の協力意向

- ・ 大会実行委員会として次年度以降、北方領土問題啓発のブース出展を行うのは難しい。人間的に余裕がなく、費用面でも対応が厳しい。
- ・ 今回のように、場所だけ提供することは可能。

パイロット事業（第8回 大鍋まつり）関係者ヒアリング

対応者：栃木放送東京支社（第8回 大鍋まつり主催）東京支社長・担当者

場所：大鍋まつり会場内

これまでの北方領土問題認知・理解状況

- ・ 北方領土返還要求栃木県民会議で長年活動していたため、北方領土に対して理解はあったが、今回も抵抗がなかった。
- ・ 祭単体でのブース出展だけだと勿体ないと感じた。北方領土問題に対してそもそも知らない人がほとんど。名前くらいしか知らないし、そこで知識が終わっている。
- ・ 2月7日の北方領土の日の前週くらいから北方領土の啓発CMをラジオを流しているが、事前に啓発CMや番組を流して、その延長でイベント開催、イベント終了後のフォローを兼ねての放送などタイアップすればもっと認知度は上がると感じた。

パイロット事業に協力した理由

- ・ 元々大鍋まつりへのブース出展の願いを博報堂に出していて、今年は博報堂側から大鍋まつりに北方領土PRブースを出したいという要望を受けたので、OKを出した。
- ・ 北方領土PRに対して特に違和感はなかった。祭の規定に抵触しているわけでもないので問題ないと判断した。
- ・ 北方領土のブースは、食事提供のブースと分ける形で対処した。食事をしに来ている人にとって食事提供ブースと北方領土PRブースが混在しているのは紛らわしいと感じると思ったから。実際そうする形にしてよかった。

パイロット事業（ブース展開）に対する評価（関わった印象）

- ・ クイズラリーをされた方のほとんどが署名をしていたのは驚いた。クイズラリーからの流れがよかったのではないかと。景品の抽選の後に署名というのがよかったのではないかと。
- ・ 署名のお願いも若い女性がしていてソフトな対応だったので、それが良い結果を生んだと思う。
- ・ お祭は多世代がくるので、ターゲットを限定していなければいいのではないかと。
- ・ エリカちゃんの存在は大きいように感じた。子どもが駆け寄ってそれにつられて大人もブースに入ってくるような形だった。客寄せとして機能していた。
- ・ ブース終了後のアンケート内容は難しかったのではないかと。
- ・ エコバックはかなり魅力的な景品だと思った。

今回のようなプログラムに対する今後の協力意向

- ・ 我々栃木放送と今後協力体制を作っていくとしたら、イベントの事前事後にラジオ放送でタイアップはできるのではないかな？
- ・ 大鍋まつりで今後、独自で行うのであればまずは出展料を頂くのが前提。ただ現場を回したり説明する人はいないと困る。自社でそれを賄うのは難しい。
- ・ 最低限来年もブースをお貸しするのは全く問題ない。
- ・ 県民会議がブース出展の仕切りなどを行ってくれるのであれば、連携は可能かと思う。
- ・ イベントと番組をパッケージング化して実施することは栃木放送としては可能。

パイロット事業（村山市のひなまつり）関係者ヒアリング

対応者：村山市商工観光課観光交流係（村山市のひなまつり主催）担当者

場所：村山市のひなまつり会場内（甕葉プラザ）

これまでの北方領土問題認知・理解状況

- ・ 村山市は北方領土とは所縁がある。村山市出身の最上徳内は現在の北方領土である国後への探検を行っていて、歴史的な繋がりがある。その点で北方領土ブースの出展には違和感がなかった。
- ・ 北海道の厚岸市と姉妹都市となっていて、相互交流でお祭りに参加し合ったりしているが、市民全体で姉妹都市に対する認知度があるわけではない。特に北方領土問題に関しては話題が出ないことがほとんどだと思う。

パイロット事業に協力した理由

- ・ ひなまつりでは他団体の出店もお受けしているし、北方領土ブースも営利目的ではないので協力した。マスコットキャラクターも登場するというので、おまつりの賑やかしになるのではと期待した。
- ・ スタンプラリーや景品といった要素が、来客者へのサービス向上に繋がるのではないかと考えた。

パイロット事業（ブース展開）に対する評価（関わった印象）

- ・ ひなまつりに来るお客様は多いことはわかっていたが、北方領土ブースに参加するお客様がどれ程いるかまでは正直分からなかった。
- ・ しかし、予想以上に北方領土ブースに参加してクイズに参加している人が多いことには驚いた。グッズが貰えるという理由もあると思うが、北方領土問題に対して興味があるのだなと思った。
- ・ マスコットキャラクターがいたことで、親子連れも参加のハードルが低くなったのではないかと。
- ・ 今回のようなクイズや景品がある形式のブース展開が、市民にとって一番参加のハードルが低いのではないかと考えた。

今回のようなプログラムに対する今後の協力意向

- ・ 現状として、市独自でブース展開を行うことは難しい。ひなまつり自体も市の職員3人で準備している状況なので、準備や当日運営に人を割くことができない。

- ・ 市で北方領土のブースを出展することになった場合、当日北方領土問題に対して質問されても何も答えられないという状況も問題。事前学習が必要になってくると思うが、それも大きな負担となる。
- ・ 例えば、このブース出展を実施することによって、本体のイベントの広報も併せて後方支援をしてくれるのであれば、相乗効果になって市にとってもメリットを感じられる。それであればまだ検討できるかもしれない。
- ・ 村山市独自で北方領土問題を大々的に取り上げていいのかという、根本的な問題も感じる。そういった領土問題を市で扱うのは慎重にならざるを得ない。運動を行政で展開することは、どこかで線引きが必要になってくることを考えるのではと考えてしまう。

パイロット事業（矢田のおかげん）関係者ヒアリング

対応者：養壽寺 担当者

場所：養壽寺内

矢田のおかげんについて

- ・ 矢田のおかげんは、実質お寺が主催。
- ・ 宗教法人主催だと市から後援を貰えないので、檀家さんも入ってもらって実行委員会形式になっている。出店は檀家さん中心。
- ・ 観光協会は名前を貸してくれている程度の参加。

これまでの北方領土問題認知・理解状況

- ・ 全千島列島は日本固有の領土であり、北方四島だけではない。
- ・ 千島樺太交換条約で千島は固有の領土になっている。

パイロット事業に協力した理由

- ・ 歴史が好きなので、今回の事業に興味を持っており、「北方領土啓発」の趣旨に賛同してブース出展に協力した。

パイロット事業（ブース展開）に対する評価（関わった印象）

- ・ ほとんどの方々は北方領土を対岸の火事として認識している。
- ・ 啓発事業自体には限界があるので、政治的に動かないといけないという個人的な思いは持っている。

今回のようなプログラムに対する今後の協力意向

- ・ 運営体制的に、今後自発的に行うのは難しい。
- ・ イベント自体もギリギリの人数で行っているなので、今回のように来てくださる分には大歓迎。